

地域の中小企業と二人三脚で 「創造する喜びの共有」を追求する



高橋 尚基
Naoki TAKAHASHI

高橋尚基デザイン事務所 代表

<http://ntdo.jp/>

学生時代は興味の赴くままに色々

地元である北海道の中小企業に「創造性」の文化を根付かせるべく、デザイナーインを活用した経営サポートに力を注ぐ高橋尚基氏。主役はデザイナーではなくあくまで企業という考え方と、「ものづくりの楽しさ」という人間の本質的な部分を企業と共有しながら課題解決に取り組んでいます。

創造する楽しさに魅せられ
デザインの世界へ

私がデザイナーを志したのは、大學に入つてからだつたと思います。それまでは何かのデザインに対し強いインパクトを受けたというわけではなかつたため、デザイナーになろうと意識することもありませんでした。ただ、小さい頃から「創作すること」は好きでした。小学生の頃は何かを作したり漫画を書いたり、プログラミ

から直接依頼がくるというより、営業して一から仕事を取つてくることがほとんどだつたため、いわゆるデザインワークよりも自分で街の歴史を調べてそれに合つたサイン計画や街路灯などを提案するということがメインの業務でした。

たわけではなく、また前任のデザイナーもいなかつたので、誰かに手取り足取り教えてもらうという環境ではありませんでした。そのため、研修やセミナーなどで勉強したり、外部のデザイナーと一緒に会社と一緒にやつたりと、自分なりに試行錯誤しながらデザイナーとしての経験を積んでいきました。

その後で3年半ほど働いた後、親の健康面などの問題もあって生まれ育った北海道滝川市に戻ることに

■たかはしなおき プロフィール

高橋尚基デザイン事務所代表

略歴
1973年北海道滝川市生まれ。九州芸術工科大学芸術工学部工業設計学科（現九州大学芸術工学部）卒業後、日本鉄塔工業株式会社入社（東京都）営業部門にて製品企画・デザイン開発・提案型営業企画に従事。2001年道内企業のデザイン開発を志し、Uターン。高橋尚基デザイン事務所設立。以来、ものづくり企業を中心に戦略的製品開発支援をはじめ、企業プランディング、創造的人材育成、地域特産物開発など幅広い分野で道内中小企業をサポートする。

役職
北海道デザインマネジメントフォーラム（HDMF）副会長
札幌市：デザイン活用型製品開発支援事業
(札幌ものづくり×デザイナープロジェクト)
製品開発プロデューサー
札幌市立大学 非常勤講師
一般社団法人 北海道機械工業会
企業間連携支援アドバイザー・参入支援エキスパート
特定非営利活動法人「アートチャレンジ太郎吉蔵」
(略称 A.C.T.) 理事

なりました。こんなに早く独立することは考えていなかつたのですが、これも一つのきっかけと思い、デザイン事務所を立ち上げました。

現在は、企業のブランディングや商品開発から販売に至るまでのコンサルティングなど、デザインを生かして中小企業のサポートを行っていますが、独立した当初は北海道に交流のある会社もなく、決して順風満帆とはいきませんでした。そのため、地元の看板屋やベンキ屋、石材屋、農業者、食品加工業者などへスケッチを持て提案するといった飛び込み営業もやつていました。中には意気投合してアルバイトをさせてもらつた会社もありましたが、数万人規模の街にデザイナーの仕事はほとんどありませんでした。ですので、自分で開発した

ができるのではといった感覚的な動機からでした。

大学で学んでいる中で、特に興味をもつたのが工業デザインです。色や形といった技術的のことよりも、コンセプトワークやプランニングなどを含めて全体を広く見られるデザインに面白みを感じるようになります。その時に、ようやく自分が追求したい「デザイン」というものが明確になつたような気がします。

ングみたいなものを組んだりもしていましたし、その後バンド活動に夢中になつて曲作りをしたりと、創造することの楽しさというものを無意識のうちに感じていたように思います。進路を決める際に芸術と工学の融合という理念を持つ九州芸術工科大学（現九州大学芸術工学部）を選んだのも、何か面白いことを生み出すことができるのではといった感覚的な動機からでした。

を楽しむ人たちとの交流は、私にとって非常に刺激的でした。

行動力と提案力
大学卒業後に入社したのは、送電や通信用の鉄塔、橋梁、街路設備を製作するメーカーでした。営業部門に配属され、そこでは企業や自治体様々な経験で磨かれた

商品（携帯音楽プレーヤー向け保護フィルム）をネットオークションで売つたり、廃校を借り受けカヌーやカヤックを製作したりと、20代の頃は色々なことを自由に経験しました。今でも楽しい思い出となっています。

ものづくりの楽しさを共有しながら企業文化に「創造性」を根付かせる

そのような活動を続けているうちに、地元のロータリークラブなど多様な企業ともつながりができるようになりました。経営者と話す機会も多くなり、経営の中でデザインを活用することにどういう意図やメリットがあるかを説明していると、そのような発想や考え方に対する興味をもつ人が次第に増えていきました。

そうした中で、株式会社コボの山村

商品（携帯音楽プレーヤー向け保護フィルム）をネットオークションで売つたり、廃校を借り受けカヌーやカヤックを製作したりと、20代の頃は色々なことを自由に経験しました。今でも楽しい思い出となっています。

ものづくりの楽しさを共有しながら企業文化に「創造性」を根付かせる

そのような活動を続いているうちに、地元のロータリークラブなどでも様々な企業ともつながりができてきました。経営者と話す機会も多くなり、経営の中でデザインを活用することにどういう意図やメリットがあるかを説明していると、そのような発想や考え方に対して興味をもつ人が次第に増えていきました。

そうした中で、株式会社コボの山村

真一氏に北海道に講演に来ていただきたことがきっかけとなり、2008年に有志と共に「北海道デザインマネジメントフォーラム」を立ち上げました。山村氏には発足以後も講演等で足を運んでいただくななど、私たちにとっての良きメンターとしてご尽力いただいています。



①日本鉄塔工業株式会社在籍時に開発した景観対応型通信鉄塔の開発。アンテナや外部機器などを内包する仕組みを特徴としており、大手通信会社に採用された。

②クラフトメーカーの早素材を活用した食器シリーズ「coberu」の開発支援。
写真:Kyoko Yamashita(n-photo)

③補助暖房機器メーカーの製品開発支援。

④漁業者における各種商品開発/ブランディング支援。

⑤商品開発のプロセスを共有し、デザイン思考を基軸とした社内改革研修の様子。



この会では、デザイナーと経営者が共に学ぶ場として研鑽を積んでいきます。こうした活動を続けていく中で、地元の中小企業とタッグを組んで取り組むことも増えていき、企業の抱える課題に対してデザインの考え方を活用しながら解決を目指していくことを自らの進む道として強く意識するようになりました。

企業の抱える課題として特に力を入れて取り組んでいることは、社員が「(繰り返しの日常で)なぜ私は働いているのか?」という問い合わせをしてくることがあります。そこで、社員がなぜ自分たちの仕事でいるのか、何をやっているのか、何を達成しているのか、何を喜んでいるのか、何を苦んでいるのか、何を喜んでいたり苦んでいたりしているのか、など、様々な視点から問題を捉えています。これまでのところ、その視点から問題を捉えられることが多くなっています。これが、企業の抱える課題に対するデザイン思考の一つです。

企業の抱える課題として特に力を

入れて取り組んでいることは、社員が「(繰り返しの日常で)なぜ私は働いているのか?」という問い合わせをしてくることがあります。そこで、社員がなぜ自分たちの仕事でいるのか、何をやっているのか、何を達成しているのか、何を喜んでいるのか、何を苦んでいるのか、何を喜んでいたり苦んでいたりしているのか、など、様々な視点から問題を捉えています。これまでのところ、その視点から問題を捉えられることが多くなっています。これが、企業の抱える課題に対するデザイン思考の一つです。

企業の抱える課題として特に力を入れて取り組んでいることは、社員が「(繰り返しの日常で)なぜ私は働いているのか?」という問い合わせをしてくることがあります。そこで、社員がなぜ自分たちの仕事でいるのか、何をやっているのか、何を達成しているのか、何を喜んでいるのか、何を苦んでいるのか、何を喜んでいたり苦んでいたりしているのか、など、様々な視点から問題を捉えています。これまでのところ、その視点から問題を捉えられることが多くなっています。これが、企業の抱える課題に対するデザイン思考の一つです。

企業の抱える課題として特に力を入れて取り組んでいることは、社員が「(繰り返しの日常で)なぜ私は働いているのか?」という問い合わせをしてくることがあります。そこで、社員がなぜ自分たちの仕事でいるのか、何をやっているのか、何を達成しているのか、何を喜んでいるのか、何を苦んでいるのか、何を喜んでいたり苦んでいたりしているのか、など、様々な視点から問題を捉えています。これまでのところ、その視点から問題を捉えられることが多くなっています。これが、企業の抱える課題に対するデザイン思考の一つです。

企業の抱える課題として特に力を